月刊 あなたにこの本を！ 平成 26 年 2 月号

大阪市立図書館 「あなたにこの本を！」選定委員会

大阪市立図書館が購入した新しい本の中から、図書館員のおすすめの本を紹介します。

・・・字が大きめ　・・・中高生にも　・・・図・写真が多い

※価格のあとの（ ）内の番号は、大阪市立図書館書誌 ID です。

スズメ ―つかず・はなれず・二千年―

三上 修 著
岩波書店 1500 円 (0012818175)

ジャンル ： 自然環境を考える

スズメは身近な鳥だが、どんな場所に巣を作り、子育てをしているのだろうか。本書は、意外と知られていないその生態などについて、豊富な写真や図版を交えて、軽妙な語り口で解説する。著者はスズメの数を調査し、少なくともこの 20 年で半減したことを明らかにした。これは人の住宅の変化や、空き地など餌場の減少が影響しているという。古くは『古事記』にも登場するなど、親しまれてきたスズメと共に暮らしていける環境について今一度考えてみたい。〔488〕

兎（うさぎ）とかたちの日本文化

今橋理子 著
東京大学出版会 2800 円
(0012811304)

ジャンル ： 歴史・文化に親しむ

美術史家の著者が、過去から現代までの絵画や工芸品などに見られる兎のかたちを題材に、日本で兎がいかに認識されてきたかを読み解く。謡曲『竹生島』に由来する「波に兎」のような伝統的な図像がある一方で、「桜に兎」のように近代以降に定着した図像もあるという。また、上村松園の『待月』などの芸術作品を、独自の視点から新しく解釈し直す過程は鮮やかだ。民俗学や文学など多様な分野から兎のかたちに迫った本書には、知的好奇心がかき立てられる。〔702.1〕

草魚バスターズ
―もじゃもじゃ先生、京都大覚寺大沢池を再生する―

真板昭夫 著
飛鳥新社 1300 円 (0012807452)

ジャンル ： 自然環境を考える

京都の名勝大覚寺大沢池は、水草を除去するために放された草魚により生態系が破壊されていた。観光と環境保護の両立を研究する著者は、その再生を依頼される。取り組んでみると、草魚の駆除だけに収まらず、水質の改善、池周辺の植生の復元まで必要なことが分かってきた。釣り人同好会や華道「嵯峨御流」などの協力を得た活動は、景観や生物多様性の保全の貴重な実践例だ。日本の自然を守るには、人間の持続的な関わりが必要という著者の主張は示唆に富む。〔702.17〕

変わるエジプト、変わらないエジプト

師岡カリーマ・エルサムニー　著
白水社　1900 円
(0012825392)

ジャンル ： 歴史・文化に親しむ

エジプト人と日本人の両親を持つ著者が、22 のトピックを選び、内側と外側から見たエジプトについて語る。多様な人種、宗教、文化を共存させ繁栄してきたエジプトの人々は、テレビに詩人のオーディション番組があるほど詩を愛し、デモの中でもユーモアを忘れない。知られざる豊かで人間臭い文化と、たくましい庶民の暮らしに引きつけられる。エジプトの深層を知ることができ、またニュースでは伝えられない政治状況も記された貴重な一冊だ。〔302.43〕

地方にこもる若者たち
ー都会と田舎の間に出現した新しい社会ー

阿部真大　著
朝日新聞出版　760 円
(0012751325)

ジャンル ： 現代社会を見つめる

地方に暮らす若者たちの考えを探るため、著者はある地方都市で調査を実施する。その結果、休日はショッピングモールで過ごすなど、身近な楽しみがある地方都市から都会に出る必要を感じていない若者像が浮かびあがった。友人や家族との関係は大切にしているが、地域社会との関係は薄く、地元が好きであることと地域に関心がないことが両立している。若者の意識の変化を知ることができるとともに、地方での生活について新たな視点を与えてくれる。〔361.43〕

ヘイトスピーチとたたかう！
ー日本版排外主義批判ー

有田芳生　著
岩波書店　1500 円
(0012814025)

ジャンル ： 現代社会を見つめる

ヘイトスピーチとは、公の場で特定の人種や民族を攻撃する、憎しみをあおる言動だ。2013 年に入り、特に在日韓国・朝鮮人の多く住む東京の新大久保や大阪の鶴橋で定期的に行われている。現場に赴いた著者は、異様な雰囲気とおぞましさを肌で感じたという。ヘイトスピーチ反対の草の根パレードなど抗議の活動を紹介し、表現の自由とのかねあい、法規制の問題を諸外国の事例をまじえ考察する。現状と問題点を知り、解決策を探る入門書として適している。〔361.46〕

青春の上方落語

笑福亭鶴瓶、桂　南光、桂　文珍、桂　ざこば、桂　福團治、
笑福亭仁鶴　著　小佐田定雄　編
NHK 出版　820 円
(0012854700)

ジャンル ： 大阪にゆかりの本

師匠とは赤い糸で結ばれていると感じて入門した文珍、「師匠に一席も落語を習うてない」という鶴瓶など、上方落語を代表する6人が修業時代を語る。しゃべりのプロによる、笑いあり涙ありの話からは、当時の様子がありありと浮かび、苦労や喜び、師弟の絆と愛情の深さまでが伝わってくる。弟子は師匠の芸だけでなく、その生き方を学び、師匠は弟子の個性を見極め、時に厳しく叱りながら見守っていく。思い出話にとどまらない、人生指南の書。〔779〕